

行政に頼らない自主運営

地域総合型スポーツC、続々と

来年1月の1市6町合併を見据え、各地で「総合型地域スポーツクラブ」(以下「クラブ」)の発足に向けた動きが活発化している。

社会情勢の変化で、大人や子どもの体力不足や地域コミュニティの希薄化などが進行。また、自治体の財政難で今後、競技参加者による「受益者負担」がさらに強いられるようになる。クラブは住民が主体となり、地域のスポーツ振興を図るもので、世代を超えたメンバーが、自由好きなスポーツを

楽しむ。運営方法は地域住民のアイデアによって異なっており、現在、県内では41クラブが活動している。

新長浜市エリアでは木之本町の「きのもとeye,s」が今年2月に発足。西浅井町では「奥びわ湖スポーツクラブ」が平成23年2月、誕生する。

両者はヨガ、フラダンス、ニュースポーツなどさまざまな体験教室を開いたり、これまで町主体だった健康マラソンなどを運営してゆく考え。

旧長浜エリアの「長浜

市総合スポーツクラブは来年4月、発足する運びで、バレーボールを軸に銃剣道やボートなど競技種目を増やしてスポーツ人口の増大を図る。